

入選

限りある水を大切に

水戸市立第四中学校

二年 小西 凜花

私達の生活において、絶対に欠かすことの出来ない水。食事や洗濯、入浴、トイレなど生活のありとあらゆる所で必要とされる。その大切な水を、限りある水として大切に使用しようと昨年の作文で書いた。それから一年、私は今も水を大切に使用したいと思います。がら、日々過ごしている。

私の生活の中で変わった事は、入浴中に身体や顔を洗っている間はシャワーを一度止める事、水筒の水を飲み切れる量にする事、お手伝いで洗い物をすする時、洗っている間は水を止め、流す時も水を強く出しすぎない事である。ちよつとした事かもしれないけれど、日々続けることで節水につながっているのではないかと思う。そんな私の事を見て、母は

「凜、えらいね」とほめてくれた。ちよつとはずかしいような、嬉しいような、そんな気持ちになった。母も私のことを見て、一緒に節水について考えてくれた。トイレを流す時は出来るだけ一回にする事、料理をする時、みそ汁があまりないように、水の量を測る事、お風呂の湯を浴そういっぱいにためるのでなく、七分目位にする事など、出来る事を考え、少しずつ生活に取り入れた。ちよつとした事かもしれないけれど、意識する事で、水の使い方に変化があった。

しかし、世界ではどうだろう。もう一度調べてみた。すると、排泄物や化学物質などに汚染されていない「安全な水」を確保できずに困っている人がたくさんいるという。このままでは、水不足により、命を落としてしまう人達が増えてしまうという。その事実にも、言葉が出なかった。私達は、いつでも安全な水がじゃ口から出てくる。しかし世界には、水が原因で病気になったり、水不足で命を落としてしまう人もいる。同じ時代を生きているのに、そのような事が起きていることに驚いてしまった。

アフリカでの水不足についての記事を見た。安全な水を使える場所は少なく、不衛生で汚れた水を使わなければいけないという。水を汲みに行くのは子供の役割。一日八時間以上を水汲みに行く必要がある子供もいるという。家族分の水を確保するため、水汲み場と家を何往復もするため、かなりの重労働である。それを私と同じ子供達がやっているとすると、なんだか心が苦しくなった。私は、朝起きると温かいご飯を食べ、水筒を持って学校に行き、勉強や友達と会話したり、遊んだりして家に帰る。帰ってから、温かいお風呂に入り、おいしいご飯を食べて寝る。それを当たり前として毎日繰り返している。しかし、アフリカの子供達はどうかだろう。八時間も水汲みに費やし、その茶色くにごった水を飲んだり、体を洗ったりして過ごしているという。それでは病気になるのも分かる。だが、そうしないと生きていけない状況なのだろう。心が痛む現状である。私に何が出来るだろう。寄付は子供の私にはまだ出来ない。でも、今まで通り、水の使い方や大切さについては考えていきたい。母と相談し、もう少し

自分が出来る節水について取り組んでいきたい。今の生活が当たり前でなく、とてもありがたいこと、そして世の中には、十分な水が得られず、苦しんでいる子供達がたくさんいることを常に思い、限りある水を大切にしていきたいと思う。そして、自分が大きくなって働き始めたら、困っている人達に「安全な水」が届くよう、少しでも寄付していきたい。世の中の子供達みんなが、いつでも「安全な水」を口に出れる日が早く来ることを願う。